

## 未来を考え、意見を交換

## 「市民の声」を紹介

テーマ  
奥州市公共施設等  
総合管理計画

**Q** 将来的な公共施設の在り方については、どのようにして地域や利用者の声を聴き、いつまでに策定するのか。また、策定後は見直しをするのか。

**A** 今回は全体的な現状を説明させていただき、したので、次の段階として、各施設の分類ごとに利用状況や建築年次などの現状を取りまとめた施設の個別計画を作成します。それから、地域ごとにワークショップを開催し、



その中で施設の現状を説明し、将来的な施設の望まれる在り方の話し合いをさせていただき、2020年までには一定の計画としてまとめます。その後は、時代の変化に合わせて見直しをかけていきたいと考えています。

**Q** 将来を担う子どもたちの教育施設は耐震化も含めて最優先で整備してほしい。統廃合のほか、新設もあると思うが、その場合はどのような計画になるのか。

**A** 教育施設を含めた公共施設を新たに建てる場合は、今まで何もなかったものを新しく建てるのではなく、従来の施設を複合化する、新たな機能に切り替えるという考え方で、全体的な延べ床面積を縮減していきたいと考えています。

**Q** 統廃合により使用していない学校を、例えばNPO法人などに無料で貸し出しすることはできないのか。

**A** 地域の皆さんのご理解や、必要最小限の水道光熱費や維持管理費などをご負担いただくなどの条件が生じてくると思いますが、可能な場合がありますので、地域の活性化に資することも踏まえ、相談に応じて対応していきたいと考えています。

**Q** 統廃合により使用しなくなった学校などの公共施設は老朽化していくため、さら地にして地域に自由に利用させることはできないのか。

**A** 施設の活用方法を検討した結果、使わない・使えない施設については、施設を解体してさら地として地域に開放することは管理費も必要となるため、施設を解体

しての敷地の有効活用も含めて検討していきます。

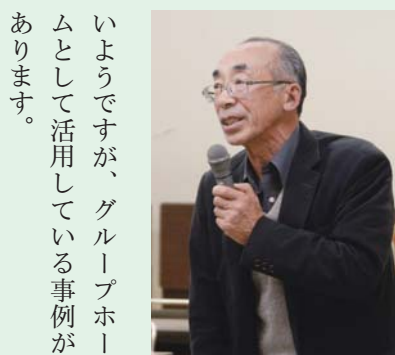
**Q** 人口が減少していき、施設が残っていくので、施設の廃止を検討しなければならぬことは理解したが、思い入れがある施設が多いので、施設を廃止する場合などは、地元とじっくり話し合って進めてほしい。

**A** 客観的な数字を基に検討を進めることとなりますが、数字だけではなく数字からは把握できない地域の皆さんの思いもありますので丁寧な時間をかけ、懇談の機会を増やしながら、将来的な施設の在り方について、地域の皆さんからの合意を得ながら進めていきます。

テーマ  
空き家対策

**Q** 空き家の利活用の参考事例があれば、教えてください。

**A** 市では移住・定住を希望する人を対象に空き家バンク事業を行っています。民間事業者では利活用が難し



いようですが、グループホームとして活用している事例があります。

**Q** 首都圏から移住する人には、小規模の農地があった方が魅力を感じるのではないかと。そのような魅力を付加する予定はないのか。

**A** 農地付き空き家の需要が多いことは承知しています。農地法において耕作する農地面積が50㎡に達しない場合には農地を取得できないという制限があることから、現在、その制限見直しの検討を農業委員会にお願いしています。

のみを対象としています。市内の人も利用できる空き家バンクの導入を検討し、適切な管理がなされない空き家になる前に、家という資産の有効活用が図られるようにしていきます。

**Q** 一人暮らしの人が大勢いるので、所有者が死亡する前に、空き家とならないための仕掛け・仕組みを講じていくことが重要ではないのか。

**A** 所有者やその家族が、空き家になった場合にどのように対処すればよいのかを土地・建物の専門家に相



談できる相談会を開催していますので、この相談会をもっとPRしていきます。

**Q** 空き家を壊すと宅地の軽減措置の対象外となり固定資産税が上がるとのことへの軽減策や、空き家を貸してもよいと考えている人に対する改修費などの支援策はないのか。

**A** 住宅の有無による固定資産税の軽減策や、建物の有効活用への支援については全国的な問題でもありますが、市としても考えますが、市長会などを通して国に働き掛けたいと思います。

**Q** 地域に危険な空き家があるが、所有者が対処してくれない。町内会の対応では難しいので、行政で対応してほしい。

**A** 原則として所有者に対処していただくことになり、所有者に対して法律に準じた強い行政指導や、周辺に危害が及ぶ恐れがある場合には条例に基づく応急措置の対応を検討していきます。

## 自由懇談

## ◆水沢病院の建て替え

**Q** 総合水沢病院は自分たちの健康を守る大切な病院である。建て替えの話が一向に進んでいないが、どうなっているのか。

**A** 水沢病院の建て替えは市の総合計画に明記されていますので、建て替えに向けて動き始めましたが、医療関係者から地域医療のあるべき姿を議論してから進めべきとの話がありましたので、現在、医療関係者と協議する資料を作成中であり、新しい病院を建てるためにどのようなか検討しているところではあります。

## ◆岩手競馬

**Q** 岩手競馬で発生している禁止薬物の問題によって、市の財政にどのような影響が生じるのか。

**A** 禁止薬物の問題に対しては、競馬組合が全力を挙げて対策を講じており、再発防止や原因究明がなされ

るものと考えます。岩手競馬はインターネット販売が好調なため、今すぐ破綻するような状況にはないと理解しています。平成18年度に市として競馬組合へ多額の融資をしたため、競馬組合自体に借金はありませんが、何としても競馬事業を継続していただき、お貸ししたお金はお返しいただく必要があります。万が一想定外の状況になっても本市において新たな費用負担は基本的には考えられません。

## ◆ILC実現に向け

**Q** ILCの国の予算が確保されていないが、これから先どうなるのか。

**A** 最終的には政府が決めることであるため、われわれとしては今までどおりの活動を継続していくことが次につながると思っています。

## ◆交通政策

**Q** バスの運行計画を見直ししているとのことだが、バスはデマンド方式とし、オール奥州で運行エリアを確保してほしい。

市民の皆さんからの意見を、これからの市政運営に生かしていきます。ご参加ありがとうございました。



**A** コミュニティ交通については、より効率的なものとし、要求に応じて運行することが可能なデマンド方式を含め、空のバスだけを走らせることなく、市民の皆さんの役に立つシステムの構築に努力します。

## ◆窓口サービス

**Q** 合併したのだから職員を減らすべきであり、組織の簡素化は必要であるが、奥州市は大きいので窓口を1カ所にまとめるのは無理である。場所に関係なく、全て用事が済むような工夫が必要である。

**A** 31年4月から総合支所において縦割りを廃止し、横の連携のグループ制を導入する予定としています。これを一つのモデルにしたがら全庁的に取り組むところは取り組んでいきます。